

第25回中国四国チアリーディング選手権大会を終えて

四半世紀の節目となった、記念すべき第25回中国四国チアリーディング選手権大会が、全国8地区で開催された「JAPAN CUP 2025 チアリーディング日本選手権大会」の地区予選最終戦として、7月13日（日）ジップアリーナ岡山で開催された。

今大会には、岡山・広島・山口・島根・愛媛の中国・四国5県より81チームがエントリーし、過去最高の929名の選手が出場、観客・大会関係者約2100人来場し、おおいに盛り上がりを見せた。

自由演技競技 総合優勝は**如水館高等学校（広島県）**、規定演技競技 総合第一位は**広島県立広島国泰寺高等学校（広島県）**、チアダンス演技競技 総合優勝はシニアの部 **IPU・環太平洋大学ダンス部（岡山県）**、アーバンチアダンス演技競技 優勝は**創志学園高等学校・A（岡山県）**が輝いた。



総合優勝 如水館高等学校

自由演技競技 総合優勝を飾った**如水館高等学校**は、昨年度の JAPAN CUP 高等学校部門で準優勝した演技からさらに難易度を上げて挑んだ。ピラミッドでは、1曲目で横に3回転ツイストをする「トリプルアップ」2台と「ダブルアップ」1台を、2曲目では宙返りのクライミングにおいて後方よりも難しい前方の宙返り技「リワインド」を2台決めた。

パートナースタuntsではダブルツイストアップ5台にトライし、バスケットトスの高さも光り、男女混成チームとしての技のキレ・魅力をいかんなく発揮した演技で会場を湧かせた。

しかし、「総合優勝が発表された時は、もちろん嬉しかったです、自分たちが追求してきた演技ができず素直に喜ぶことができませんでした。挑戦してきた技や見せたいポイントをしっかり決めきることができなかったことが本当に悔しいし、とても大きな改善点だと思います。」とキャプテンが言うように、演技中盤以降のミスが惜しまれる。

「日本一」を目標に掲げる如水館高。毎日試行錯誤を繰り返し、妥協なく努力を重ねて高いレベルの技へ挑戦し、完璧な演技を追求しているという。ここからさらにチーム全体がひとつとなり、JAPAN CUP という大舞台で、会場全体を巻き込み、チームが目指す「感謝と感動を届ける演技」を完成させてほしい。

「大会に向けて演技を完成させることはもちろん、スタントのキャッチングや“止まり”といった細かい部分にも妥協せず向き合ってきた」という環太平洋大学が、全体的に完成度の高い演技を披露し、大学の部で優勝した。演技終盤のリwind 2-2-1からの2-2-3への展開でミスが出たが、正確で力強いアームモーションやダンス、スピード感あふれるタンブリング、同調性のあるパートナースタント・ピラミッドなどで演技を見事にまとめた。



環太平洋大学

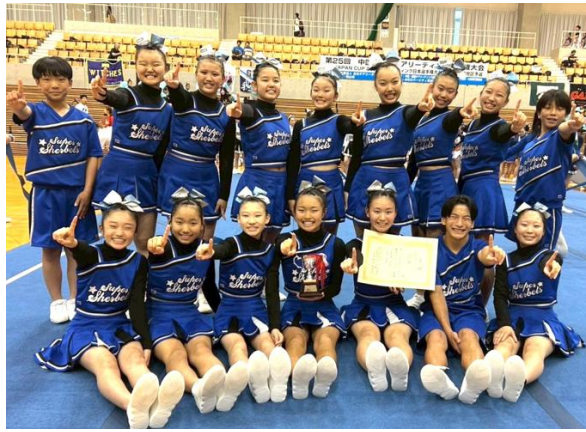
「最後までやり抜くことを今後の課題として受け止め、JAPAN CUP では完璧な演技で魅せきる。」と、力強いコメントを聞くことができた。

さらに、同大学はチアリーディング スピリッツ演技競技でも優勝を飾り、JAPAN CUP 出場権を獲得した。そのチームの目標は「Make a splash」。10人全員が責任を持ち、持てる力を最大限発揮した演技であった。今後はさらに規定要素のアームモーションやダンスなどを細部まで揃え、JAPAN CUP では、中国・四国大会の演技よりも成長した姿を見せてくれるだろう。

小学校低学年の部、小学校高学年の部、中学校の部においては、ドリレボキッズチアリーディングチーム・ドリレボチアリーディングチーム（広島県）が優勝を独占した。大会前、チームコンディションは決して順調とはいえない中、「心をひとつにすること」「絶対に笑顔で終わること」を大切に取り組んできたという同チーム。本番では、力強いジャンプや元気いっぱいのダンスを笑顔や大きな声で表現しており、その「思い」が選手たちの演技から溢れていたように感じた。チームは「JAPAN CUP では、細部の完成度を高め、喜びと責任感を胸に、観てくださるすべての人の心に、“勇気”や“希望”が灯るようなパフォーマンスを届けたい。」と意気込んでいる。



ドリレボキッズチアリーディングチーム（左：小学校低学年 右：小学校高学年）



ドリボチアリーディングチーム（中学校の部）



広島県立広島国泰寺高等学校

規定演技競技では、**広島県立広島国泰寺高等学校**が、初の総合第一位の快挙を果たした。

安定したリズムで、表情や発声などのチアリーディングの基本テクニックを忠実にまとめ、体全体を大きくのびやかに使い、堂々とした演技を見せた。

リズムやフォーメーション・スペーシングといった練習量が必要な要素も丁寧に仕上げ、選手全員が規定演技に求められる要素を理解し演技に臨んだことがうかがえる演技だった。

チアダンス演技競技では、**IPU・環太平洋大学ダンス部**が息の合った演技で観客を魅了。

使用する曲の種類が増えたことにより、演技構成の内容やバリエーションが豊かになったことがうかがえた。難しいフォーメーションを多用し、動きの変化に工夫をこらし、全身の細かい部分まで意識されたキレのある動きや、ストーリー性のある演技構成に多くの観客が引き込まれた。



IPU・環太平洋大学ダンス部



創志学園高等学校・A

アーバンチアダンス演技競技 優勝は**創志学園高等学校・A**が手にした。

男女混成チームならではの男子選手の力強さ、女子選手のしなやかさ・柔軟性を表現するだけでなく、女子選手も力強さを表現する場面を組み込む等、演技が単調にならないような創意工夫が見られた。曲の特徴をとらえた振り付けも印象的だった。

ジュニアから大人、シニア世代まで出場した今大会。特にチアダンスの出場チームが増え、大会の全体的な盛り上がりは年々増加している。

また、小学生の演技では、構成に創意工夫が見られ、子どもたちの笑顔や大きな声のアピールで、会場が温かい空気に包まれた。これからの中国・四国地区を担う選手たちの成長が楽しみである。

第25回の節目となった中国・四国大会。エントランスにて第1回大会からの歴代プログラムの掲示、歴代出場全チーム名が入った「25周年記念うちわ」、大会運営を支えてきた実行委員一人ひとりの名前を記した「特製クリアファイル」も用意された。また、大会セレモニーの後に「大会25周年記念チアリーディングクリニック」が開催され、観客がチアリーディングの本質である「応援」が体感できる企画も実施された。



ここにいたるまで、無事に大会を開催できたのは、選手や各チームの日々の努力と、それを支えてこられた保護者やチーム・学校関係者の理解と支援、運営に携わってこられた実行委員など、多くの方々の温かい支えとたゆまぬサポートがあったからこそである。

中国・四国地区の各チームがさらに発展し、今大会も第30回、40回、50回…とバトンが続いていくことを願っている。

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.